

2021年3月7日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒38番（旧23番）

『よよにほむべし』

聖書⇒詩編 103:1~5

「ダビデの詩。／私の魂よ、主をたたえよ。／私の内なるすべてのものよ／その聖なる名をたたえよ。私の魂よ、主をたたえよ。／そのすべての計らいを忘れるな。主はあなたの過ちをすべて赦し／あなたの病をすべて癒やす方。あなたの命を墓から贖い／あなたに慈しみと憐れみの冠をかぶせる方。あなたの望みを良きもので満たす方。／こうして、あなたの若さが／驚のように新しくよみがえる。」

礼拝讃美歌⇒150番（旧63番）

『かむりうけて』

聖書⇒ルカ 14:15~23

「同席していた客の一人が、これを聞いてイエスに、「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と言った。そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう準備ができましたので、お出てください』と言わせた。ところが、皆、一様に断り始めた。最初の人には、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させてください』と言った。ほかの人は、『牛を五対買ったので、それを調べに行くところです。どうか、失礼させてください』と言った。また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』と言った。僕は帰って、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒って、僕に言った。『急いで、町の大通りや路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。』やがて、僕が、『ご主人様、仰せのとおりにいたしました。まだ席があります』と言うと、主人は言った。『街道や農地へ出て行って、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ』

礼拝讃美歌⇒461番（旧28番）

『たたえのうたこそ』

《パン裂き》

聖書⇒第一コリント 11:23~26

「私があなたがたに伝えたことは、私自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りを献げてそれを裂き、言われました。「これは、あなたがたのための私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。」食事の後、杯も同じようにして言われました。「この杯は、私の血による新しい契約である。飲む度に、私の記念としてこれを行いなさい。」だから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲む度に、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」

礼拝讃美歌⇒461 番 (旧 128 番)

『聞けおとずれ』

《建徳》

第一コリント 15:1~10

「きょうだいたち、私はここでもう一度、あなたがたに福音を知らせます。私があなたがたに告げ知らせ、あなたがたが受け入れ、よりどころとし、これによって救われる福音を、どんな言葉で告げたかを知らせます。もともと、あなたがたが無駄に信じたのではなく、今もしっかりと覚えていればの話ですが。最も大切なこととして私があなたがたに伝えたのは、私も受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりの私たちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、ケファに現れ、それから十二人に現れたことです。その後、五百人以上のきょうだいたちに同時に現れました。そのうちの何人かはすでに眠りに就きましたが、大部分は今でも生きています。次いで、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒に現れ、そして最後に、月足らずで生まれたような私にまで現れました。私は、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中では最も小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。神の恵みによって、今の私があるのです。そして、私に与えられた神の恵みは無駄にならず、私は他の使徒たちの誰よりも多く働きました。しかし、働いたのは、私ではなく、私と共にある神の恵みなのです。」

《建徳要旨》

I コリント 15 章 1 ~ 10 節 : 私たちの拠り所である福音とは、キリストが旧約聖書にかいてあるとおりの**私たちの罪のために死なれ、葬られたこと**、そして、旧約聖書にかいてあるとおりの**三日目に復活したこと**です。主の十字架と復活、それが最も大切なこと。罪を犯した私たちではなく、罪のないキリストがその身代わりとなって死なれたのは、愛と憐れみのゆえ。死後キリストは光と希望の

ない陰府に降られた。命の君が私たちと同じ死を受けられたのは驚き。それは、すべての人を救うため。キリストは死で終わらず、聖霊として新しい命に復活された。そして信じられないでいるケファ、12弟子、五百人の兄弟たち、主の弟ヤコブ、すべての使徒、最後にパウロにその身を現わされた。6回「現れ」と繰り返されている。復活の主と出会い、信仰を新たにされている。出会いはこちらが求めたからではなく、主の方から「現れた」。その、出会いが福音であり、神の恵み。

では、私たちはいつ、その主の現われと出会ったのか。私は20歳の時、イエスを自分の救い主と信じた。はっきりした自覚はなかったが、その時、復活の主キリストと出会っている。主の現れは、過去のその時点だけのことではない。その後も継続して今に至っている。なぜなら主は復活され、今も生きて働かれているから。ゴスペル讃美歌は次のよう。

♪主イエスは わがため 十字架にかけられ
わが罪あがない墓より よみがえられた
主は今 生きておられる わが内におられる
すべては主の御手にあり 明日も生きよう
主がおられる ♪

主よ、あなたは目には見えない御方。なのに私はあなたを固定的・人間的に捉えようとしていました。だから、あなたのことが判然としませんでした。あなたはいのちの聖霊として、闇を照らす光として、私の内側に居られます。燃えても燃え尽きない不思議な柴としてモーセに現れた神は、心と霊を燃やす火として私の中に生きておられます。そして、絶えず私に「現れて」くださっています。それに気づく者とならせて下さい。それが私の拠り所、福音です。(K・H)

礼拝讃美歌⇒395番(旧252番)

『いつくしみふかき』